

どんな職業か

雑誌、書籍、ポスター、パンフレット、カレンダーなどを紙に印刷する作業を行う。現在では技術の進歩により、紙だけでなく金属や木材フィルム、プラスチックカードなどにも印刷を行っている。紙に印刷する方法は、活版（凸版）、オフセット（平版）、グラビア（凹版）の3つがあり、それぞれに一枚一枚の紙に印刷する枚葉（まいよう）印刷と、ロール状の紙に連続して印刷する輪転印刷がある。効率がよいことから、最近ではオフセット印刷が主流となっている。印刷機には、1色だけ刷る1色機とカラーの絵や写真を刷る多色機があり、ほとんどの印刷会社では、1色機と4色機（青＋赤＋黄＋黒）を使っている。オフセット印刷の場合、作業前に校了紙（プロセス製版オペレーターによる見本刷り）と印刷物の元になる刷版、用紙、インクを準備し、作業指示書によって印刷部数、色数、用紙などを確認する。試し刷りを行い、刷版の位置を微調整し、色の濃さを見てインクの量を調節する。試し刷りで確認を終えると本刷りに入り、インクの量や見本刷りの通りに刷れているかなどに気を配りながら印刷する。用紙や印刷状態の異常に気づいたらすぐに機械を止めて点検を行う。印刷された紙はインクが移らないよう注意しながら乾かし、裏面に同様の作業を行う。所定の枚数の印刷が終わると、次の断裁・製本などの工程に引き渡して作業を完了する。

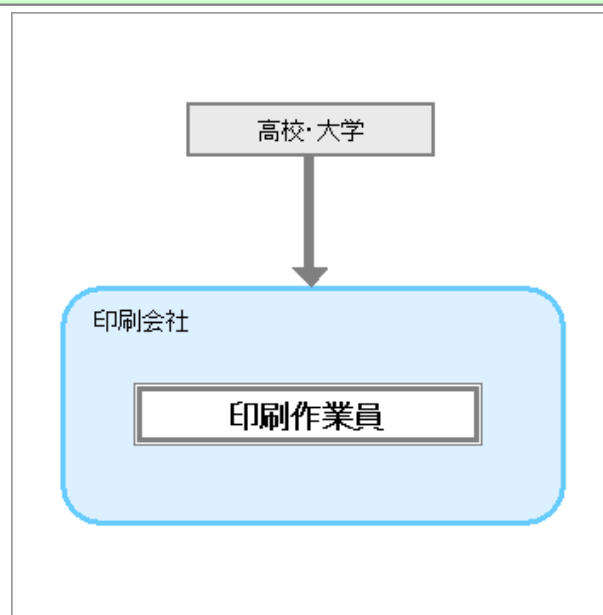
就くには

入職にあたって特に免許や資格は必要なく、一般的に定期採用では高校・大学の新卒者が多い。

採用後は、印刷の仕事全般に関する基礎教育を受けてから配属されるのが一般的で、その後はOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）で経験を積み、一人で印刷機の稼働ができるまでには3～5年かかる。

印刷作業員として経験を積むと、色のチェックや進行管理を行う部署へ異動することもある。

校了紙（見本刷り）に書きこまれた明るさや色味についての指示を見て、自分で色を判断しなければならないので、色に対して鋭い感覚を持っていることが必要である。また、印刷作業の機械化が進んでいるため、機械に詳しく、コンピュータを使いこなせる技能が必要になってきている。

**労働条件の特徴**

職場は、中小の印刷会社が多いのが特徴で、従業者10人未満の企業が8割を占めている。

就業者の年齢別では若年者が多い。

スピーディーな納品を要求されるため、職場によっては昼夜二交替制をとっており、その場合は夜勤がある。カレンダーや雑誌の発行（刊行）が集中する秋から年末が繁忙期で、残業が多くなることもある。

印刷作業は全般的に機械化が進んでおり、印刷作業員の労働需要は減少する可能性もあるが、その一方で、多くの産業分野で多様な印刷方法に対するニーズが出てくると予想され、印刷そのものに対する需要は拡大すると考えられる。

参考情報

関連団体 社団法人 日本印刷産業連合会
<http://www.jfpi.or.jp>

関連資格 印刷技能士